

令和5年度老人クラブ会員の情報交換会(西部地区)

【仲間を増やすために行った活動】

- ・体験会員を実施
- ・お花見会
- ・自治会を巻き込んだ活動(百歳体操を自治会と共同で活動)
- ・会員が主体的に考えた事業(足つぼ、料理、eスポーツ)
- ・eスポーツ体験
- ・ゴルフコンペ
- ・いきいき百歳体操
- ・料理講習
- ・観光ウォーキングの実施
- ・しめ縄づくり
- ・卓球交流会
- ・花づくり活動
- ・視察研修活動
- ・カラオケ、写真教室、料理教室
- ・新しい行事(カラオケ、写真教室、料理、サイクリングロード清掃)
- ・グラウンドゴルフ同好会に入会して親睦を図った(バウンスポールも同様)
- ・市老連の輪投げ大会に誘った
- ・研修会の内容に参加できることを取り入れた(体操、コーラス)
- ・以前加入していた単位クラブ会員のところへ会長が出向き再加入を勧めた
- ・グラウンドゴルフ(単位クラブ)の練習時刻を女性でも参加できる時刻に変更した
- ・地域活動による社会参加→生きがい、人と人とのつながり
- ・行事の紹介を町報に掲載
- ・防災無線で案内(3日程度)、ケーブルTVで流す(1週間程度)
- ・クラブのない集落の核となる人に働きかけてクラブ発足のきっかけとなった
- ・サロン活動に関心のある人への声掛け
- ・入会されると思われる人に対し、粘り強く加入をすすめた
- ・仲のいい人から声掛け、年会費も平成10年から1000円減
- ・新規会員募集のチラシ配布、一人一人への声かけ、自治会等に協力をいただき全戸配布

【クラブの会員減少の原因】

- ・会員の高齢化と高齢による体力の衰え(役職ができない、病気など)
- ・自然死や病気、施設入所、家族介護等
- ・高齢でも仕事をする人が多い
- ・若い人不足、次世代が育成されていない、若い人の意見が通らない
- ・代表者がいない、役員をしたくない、充て職が多すぎる
- ・事務局が何もしてくれない
- ・コロナで行事が減った

- ・出番がない、仲違い
- ・楽しみが少ない、魅力がない
- ・他の人と同じ活動が出来なくなった時の気遅れ
- ・年代によりものの考え方の違い
- ・ボランティアばかりで負担
- ・クラブのやる気低下
- ・老人クラブの意義が分からない
- ・他の趣味が多い
- ・会員の募集が難しい
- ・老人クラブという名称が嫌い
- ・世話が嫌
- ・年齢が上がるにつれて役員の名乗りがでてこなくなった
- ・脱退しても補助金がもらえる

【会員減少への対策】

- ・若い人の意見を優先的に聞く
- ・役員 3～5人で加入してもらえそうな方を勧誘
- ・会員各自の一本釣り(お友達を説得)、声掛けによる誘い
- ・口コミ訪問
- ・老人クラブの活動以外でターゲットを決めて誘う
- ・得意な才能を生かしてもらうよう策略して誘う
- ・会員同士のふれあいから再スタート
- ・60代の人々に積極的に話しかけていく
- ・夫婦での連合会への加入
- ・チラシ、パンフレット
- ・広報活動(広報誌、HP、口コミ)
- ・PRに伺う
- ・活動時間の調整、活動内容の見直し
- ・行事の選定(そば作り作業、ボランティア、文化祭展示)
- ・実生活に使える内容を入れる(正月用生け花)
- ・行事の中で積極的に誘う
- ・視察研修の行先と工夫と内容
- ・楽しい行事を企画して誘う、楽しさを知ってもらう
- ・女性中心に次回の予定を決める
- ・みんなが楽しめる(飲む、話す)
- ・体験会員の募集をする(個人会員として迎える)
- ・単位クラブを集落ごとに組織化、個人参加のクラブを結成
- ・自治会と協力関係の強化